

ボローニャ滞在記< 2 3 >—マルゲリータ公園、滞在許可証取得への戦い—

◆10月23日(金曜日)、今夜はそれほど寒くないと思っていたら、大家の Luca さんが、とうとう暖房を入れたのでした。よかったよかった。これまで夜は本当に寒くて、手も指先も冷たくなるのでパソコンもうまく打てず、いろいろと重ね着をしながら過ごしていたのですが、もうその必要はなくなったわけです。

その翌日、昼過ぎに Giardini Margherita という大きな公園に出かけました。日本でいうなら代々木公園あるいは小金井公園みたいなものでしょうか。入口は数か所ありますが、中には川あり、鳥達もいて、お店もあります。ベンチに座っておしゃべりする老人たち。そのような様子を見ていると、何やらボトン、ポトリと上から落ちてくるものがあります。何かと思ってみてみると、団栗(ドングリ)?らしきものでした。ちょうどその木の下にいたからです。



入口の看板



非常に広く木々が豊富です



秋には紅葉が美しいでしょう



野鳥も数多くいます



落ちてきたドングリです。結構大粒でした。

◆私の居所の近くに「みやび」という日本レストランがあります。ただこれも中国人経営らしいですが。つまりもともと中華レストランだったのですが、値下げ競争によってほとんどもうけが出なくなり、その流れから抜け出すために、こちらでは値段がある程度高いことが常識化されているフランス料理と日本料理のうち、日本料理を選んで新装開店したらしいのです。確かに握り寿司一皿 6 貫で 12€は高いですね。私は入ったことはありませんが、表にメニューが出ているので、いつもそれを見てため息をついています。

でもここはよくパーティーが開かれます。よく見ていると日本でいう披露宴だったり。この日も何かのパーティーでした。写真の人たちは中国語を話していました。



何が行われているのか…？

日本料理は高いので、その目の前の COOP に行ったところ、Filetti di Alici(カタクチイワシ=アンチョビーの三枚おろし)がオリーブオイル漬けになって、しかも 40%引き!で売っていました。早速一つ購入。久々の魚なので、喜んで食べてみました…が、味は…うまく表現できませんが、いわばプリプリ感のない塩辛のようなものでした。ちょっと期待はずれ。これはどう見ても酒の肴ですね。

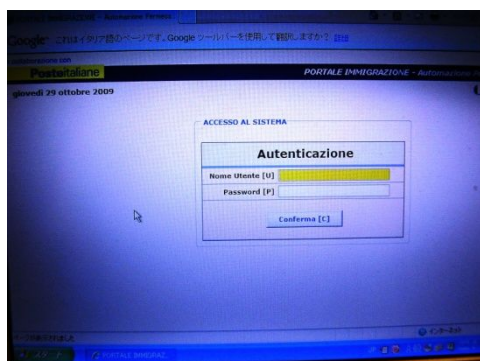


缶には Delicious(非常に贅沢・上品・優雅)と書いてあるのに、塩の塊を食べているような感じ。イタリア人がこのようなものばかり食べていたら、高血圧になること間違いなしです。

◆先日、Scuderia で日本人の文系の研究者に遭いました(専門は聞き損ないました)。彼の日本人の友人たちも一緒に、私も含めて合計 5 人。これほど日本人に遭ったのは初めてです。時と場所が重なると会うものなのですね。

いろいろお話をしましたが、その中で、la carta del permesso di soggiorno(滞在許可証カード)の取得に話が及び、私が郵便局サイトを利用しているという、それは無駄であり、Questura

のホームページに掲載されるのを見なければならないと、全く知らなかった情報を教えてくれました。



何度見ても、掲載されていなかった郵便局サイト。

その情報によると、そのホームページに pdf.版で生年月日と国名並びに password が記載されているので(氏名は記載されていない)、そこから自分のものを探し、あったらすでに出来上がっているもので取りに行くことになるということです。

その日の夜、当該 URL と見方をメールで教えてくれたのです。感謝です。実際に調べてみたところ、びっくり、私のがありました。取りに行かなければなりません。



Polizia di Stato のホームページ。右の下の方に「Titoli di soggiorno consegna」とあるので、そこをクリック。すると下記のような画面が出るので、自分の記述を探すこと。

09/03/1959	TUNISIA
01/04/1959	UCRAINA
09/04/1959	ECUADOR
13/04/1959	MOLDAVIA
23/04/1959	MOLDAVIA
04/05/1959	GIAPPONE
29/05/1959	MOLDAVIA
29/05/1959	MAROCCO
30/05/1959	UCRAINA
15/06/1959	UCRAINA
29/06/1959	UCRAINA

中央に「04/05/1959 GIAPPONE」とある。私の

生年月日と国籍で、この右の方に password も記載されていた。

そこで、経験者の話では、まず整理券の取得が一番大変とのこと。当日に配布される整理券がないと、自分の滞在許可証を受け取ることができないのです。しかも一日分が大体 100 枚〜130 枚くらいなので、はやく **Questura** に行っていないと、それを手にすることができないということです。もちろん、集まっているのは、歴史・宗教・社会風習・価値観等々全く異なる人々ですから、日本的常識の整列などが通じるかどうか疑問です。そのため私も頑張って早起きをする事になりました。以下、時系列的にその時の状況を記述します。

※4 時 30 分起床。5 時 28 分の始発バスに乗り **Amendola** という **Questura** の最寄りのバス停で降車予定。しかし間違えて一つ手前のバス停で降りてしまった。そこから **Questura** まで徒歩。

※5 時 50 分に **Questura** 到着。既に 22 名おり、私が 23 人目であった。一応列のようなものがあつたので最後部に並ぶ。列に加わらない人もかなりいた。

※6 時少し前にロシア人と思しき大男が、**Chi è il ultimo?**(最後は誰?)と聞く。この状況で正確で正しいイタリア語を話す外国人は一人もいない(だろう。私の前の人に話しかけたら、彼は殆んどイタリア語ができなかった。)ので、とにかく意味が通じればよい。聞く方も半分は直感で聞いているようだ(私を含めて)。そこで私が自分の後ろを指で指示し、彼は私の後ろに並ぶ。

※この状況で、列に並んでいなかった人たちの間に動揺が走る(ように思えた)。それぞれが列に入ろうとし、すでに並んでいる人たちとの間で口論が発生。一人の **donna**(女性)が仕切り始め、とてもうまく列をつくり、皆から **bravissima!**とか **good job!**などと歓声が漏れ、彼女は悠々と去って行った(特に許可証を取りに来た人ではないようだった)。その後しばらくは、来た順に最後部に並ぶようになった。

※7 時過ぎに大柄なアフリカ系女性が二人到着。信じられないことに最前部に並ぶ。周りの人たちが怒だし、罵声の中、口論が繰り広げられる。当人たちは英語交じりのイタリア語でまくし立て、列を作っていた人たちはイタリア語で応戦。二人のうち一人が列を離れようとしたとたん、勢いのよい方が **keep ourselves here!!**と怒鳴る。遅く到着し、列に並んでいなかった人たちが野次馬として集まり、列を作っている人たちは列を崩さないで、この不埒な女性に文句を言っている善良な人は、最前部のごく少数となり、しかもご老人たちであったため、結局は押し切ら

れてしまったようだ。彼女たちの言い分は、最前部にいた人よりも早くこの場所に着いていたが、寒かったの?ちょっと離れていたということ。これで私の順番は 25 番目になった。

※7 時 30 分に一番外側の門が開かれる。列の順に前進…っと思いきや、さきほどの野次馬連中が一気に割り込んでくる。奥にある第二の門の前に 2 列状態でならぶ。そこにひとりの **poliziotto** が来て、もっと前に集まっておくように、という。皆、常識的に、列を作っているんだというのに、この **poliziotto** は、とにかく前の方に集まれ!という。これに乗じたのが列の後ろにいた人たち。彼らが一気に前に来る。この団子状態で約 1 時間待つ。

※8 時 30 分少し前に、別の **poliziotto** が来て、一列に並べ!っという。皆、さっき前に来るようにと云われた!っとなにやらに回答。でも彼は聞く耳持たず、とにかく一列を作れ!っという。そこで団子状態から一列を作る際に大混乱。割り込みは当然。押しあい押し合いで、とにかく一列になる。私も頑張って、思いつき笑顔をつくり、**scusi!?**などと言いながら、割り込む。

※8 時 30 分、開門。順番に整理券を受け取る。**poliziotto** が渡す直前にひとり一人に対して **permesso** のためか?と聞き、**si**(はい)という人だけに整理券を渡す。私はよく聞き取れなかったの、とにかくまともに返答せずに笑顔で **grazie!**といって整理券を受け取る。あとで彼の質問の意味が脳裏に明確になった(いつもこの調子)。



この時点では、まだ整理券も多く残っていた。

私の受け取ったのは 53 番。最初の時から 30 番も落ちている。30 人が私の前に割り込んだのだ。ちょうど切りがいいな、などとのんきなことを考えてしまっている…場合ではないのに!でもこれで滞在許可証を受け取れるという安堵感が、このような余裕?を作り出したのだろう。整理券をもらった人たちの表情は、一様に穏やかである。



この整理券を手にするために、皆必死になる。

※あっという間に本日の整理券は終了。私も興味本位で配布場所の近くで見えていたが、本日は全部で 120 枚。121 番、122 番くらいの方は、本当に泣きそうな顔をして、色々食い下がっている。まさに目の前で整理券がなくなった人たちは、悲痛な思いで一所懸命、何とかしようと思ひ訴え続ける。それを冷酷に、もう終わり!といって追い返す。これが 30 分くらい続き、結局は諦めて帰って行った。心が痛む。どうしてもっと効率的で確実なシステムを作れないのか?本当はイタ

リア人は頭が悪いのでは、っと思う。私もあと 30 分遅れていたら、整理券は手に入らなかったであろう、と思い、アドバイスをくれた人たちに再度心の中で感謝した。

※時間がたつと、私が 8 月 24 日に行ったのと同様の手続き(第 1 回目の出頭)をする人たちが集まってきて、Questura の建物の中は満員状態。しかもご老体や乳飲み子を抱えた母親なども多く、その人たちにベンチを譲ると、私などが座れるスペースは全くない。かといって 53 番だが、ここはイタリア、何があるか分からない。別の場所でコーヒーを飲んで時間をつぶすなど、危険である。この時点でイタリア人の頭の構造に疑問が彷彿として湧き上がっている。ローマは実利的な面で優れていたというが、見方を変えれば抽象的なことができないほどの「頭の不自由」な人たちではなかったのか?と最近つとに感じることもある。

※建物の中には il numero di turno(順番の番号)を電光掲示する場所が 2 か所あるが、今回の私にとっては建物に入って右側の掲示板だけが必要。もう一つの掲示板の意味するところが最後まで不明であった。01、02、03…と番号が掲示され、その番号の整理券を持っている人だけがドアを開けて中に入る。出てくる人の顔を見ると、ニコニコ顔と、別の書類を渡されて別の部屋に行く人など様々である。ということは、最後にまた何か関門があるのか?と不安になる。あのドアの奥には一体何があるのだろうか?

※11 時 2 分、掲示板に 53 の文字が発光する。必要書類は…他の人たちはかなり多くの書類を持参している…私はパスポートと引換証?(郵便局でもらった ID と password が書いてある紙)だけであり、他にないもない。もし必要書類が他にもあったとしたら、本日の努力は無に帰すどころか、そのショックは非常に大きなものとなるに違いない。しかしもうどうしようもない。

※腹をくくってドアを開け、中に入る。左の壁に映画館の切符売り場のような窓口があり、そこに持参した二種類を提出。ここでも思いっきりの笑顔で **buongiorno! ecco, per favore!!**と演技をする。担当者がパスポートの写真と私の顔を比べ、右手人差指を指紋検査機に置くように指示。云わるままにする。その間、引換証の番号から私の **la carta del permesso di soggiorno**(滞在許可証カード)を探し出し、機械に挿入。しばらく何かをインストールしているようだが、すぐに終了。引換証はホチキスで 3 枚閉じられていたうちの 2 枚目だったが、それだけ保管し、残りはその場で破り捨てる。私にパスポートを返し、滞在許可証カードとケースを渡す。ここでも思いっきりの笑顔で **grazie mille!!**(今度は mille まで付けてしまった)。この媚び様を恥ずかしく思いながらもここは異国の地、生き残ることが最優先、と思い直していると、担当者もニコリ笑顔で **prego!!**。まあ、いいか。たぶん他の人たちは、ほとんど笑顔などつくらなかったのだろう。むしろこれまでの苦労を思い、無表情で受けとって出て行ったに違いない。そこに男性ながら思いっきりの笑顔。これは効いたかな、などと勝手に思いながら、振り向きもせず Questura を後にする。



ようやく取得した滞在許可証カード。大変でした。

11 時 4 分すべて終了。起床した 4 時 30 分から終了の 11 時 4 分まで、一度たりとも座っていない、約 6 時間 30 分、立ち続けであった。

当日の夕方は *Cultura Italiana* で授業。Maria 先生にこの話をしたら、吃驚仰天。6 時間半も立っていたの!と驚いていました…が、私自身にとっては、まあ大変には違いありませんが、それほど驚くようなことではないし、確かに疲れましたが、想定内でした。というのも、日本で朝夕の通勤ラッシュ時に片道 2 時間余りも、すし詰め状態の電車に揺られ、頼りは自分の二本の足だけで、身動きも出来ず、梅雨時は蒸し暑く、ときどき止まり、それでもじっと我慢して揺られている、このような生活を数十年続けてきた身にとっては、6 時間半といえども、自由に動け、屈伸もでき、上体の伸びもできるなど、天国のような待ち方です。もちろん、*Questura* の建物の外では、多くの人が地べたに座ったりしていましたが、そのような無作法でみっともない真似はできません。心の中では、「日本の通勤族をなめるな!!」っと叫んでいました。

ただ一つ考えて実行したのは、当日の朝起きてトイレに行き、そのあとは何も飲食はしなかったということです。水さえも飲まなかった。おそらく列などの形で、しかも寒い中、非常に長く待たされると覚悟していたので、途中で用足しに行ったら、おそらく私の場所はなくなっているに違いないと思ったからです。数人の知り合いと一緒に交替で用足しに行けるのですが、なにぶんにも一人ですから(少しでも知り合いを…っと思って前の人に声をかけたのですが、私のイタリア語が判らなかったようです)。でもこの考えは正解でした。整理券を入手するまで、全くトイレに行きたいとは思いませんでしたから(それでも整理券入手後、建物のなかのトイレに一度だけ行きましたが)。

このような強気の発言ですが、やはり年齢には勝てず、翌日の午後あたりからドッと疲れがでてきました。もちろん日常生活には影響ありませんが。

◆その後は、例の英文和訳の再再依頼に応じています。しかし、どうしたらよいのか…。たとえば **with the possible exception of**…を、文脈も考えつつ、私は「…を除くことができるが」と訳したのですが、編集者は「…を別にして」と試訳して来ました。で、この **possible** という語を、どのように正確に表現するのか、っで悩んだりしています。それとも「別にして」という表現に **possible** の意味が含まれているのか…もう日本語力の問題なのでしょう。

そのようなわけで、またまたイタリア語は中断状態です。残り 5 カ月となり(実際はもう少し短い)、何のためにイタリアまで来たのか、分からなくなっています。実際にイタリア語文献は全く読めていませんし、英語文献でさえも調べ、読む時間と余裕がありません。大家さんとは相変わらず生活時間が交差していません。救いは、数人の優しく素晴らしい日本人と知り合えたこと、およびこちらの柔道関係者との人脈ができつつあること、ですか。でも自分の研究とは直接的な関係は全くないことばかりです。

窓に射す初冬の陽光(ひかり)、暖かくもなく……………(消沈)

(続く)